

# Cisco UCS Central リリース 1.4 のリリースノート

初版 : 2015 年 12 月 17 日

## はじめに

このマニュアルでは、Cisco UCS Central ソフトウェア リリース 1.4 のシステム要件、新機能、解決済みの警告、既知の警告、および未解決の警告と回避策について説明します。また、技術文書の公開後に入手可能になった情報も含まれています。

Cisco UCS Central の最新情報については、Cisco.com で入手可能なその他の資料を参照してください。

## マニュアルの変更履歴

リリース	日付	説明
1.4(1a)	2015年12月11日	Cisco UCS Central リリース 1.4(1a) のリリース ノートを作成しました。

## システム要件

ブラウザベースの Cisco UCS Central GUI にアクセスするには、ご使用のコンピュータが次の最小システム要件を満たしている必要があります。

- Windows
  - Internet Explorer 9 以上
  - Firefox 29 以降
  - Chrome 34 以降
- Linux RHEL
  - Firefox 29 以降
  - Chrome 34 以降

- MacOS
  - Firefox 29 以降
  - Chrome 34 以降
  - Safari 6 以降

Adobe Flash Player 11.7 以降。



---

(注) Chrome ブラウザでは、バンドルされた Flash プレーヤーを削除してから Adobe Flash プレーヤーをインストールします。

---

リリース済みの ISO は以下でサポートされます。

- VMware ESXi5.0 U3、ESXi5.1、ESXi5.5、および ESXi 6.0
- Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 SP1 と Microsoft Hyper-V Server 2012
- Red Hat Enterprise Linux 6.5 上の KVM ハイパーバイザ

リリース済みの OVA は VMware ESXi5.0 U3、ESXi5.1、ESXi5.5、および ESXi 6.0 でサポートされます。

## Cisco UCS Central リリース 1.4(1a) での変更

### リリース 1.4(1a) の新しいソフトウェア機能

リリース 1.4(1a) は、HTML 5 ユーザ インターフェイスの次の新しい機能をサポートします。

機能	動作
高度なローカルストレージ設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ストレージプロファイルと複数の仮想ドライブの設定：ストレージディスクの数、ストレージディスクの役割と用途、およびその他のストレージパラメータを柔軟に定義できるように、ストレージプロファイルを作成して使用できます。ストレージプロファイルには、1つ以上のサービスプロファイルのストレージ要件がカプセル化されます。複数の仮想ドライブを設定することもできます。</li> <li>• プライマリ ブート デバイスとしてのローカル LUN または JBOD の設定</li> <li>• 複数のストレージ コントローラでのローカルストレージ設定のサポート</li> <li>• ローカルストレージのアウトオブバンド設定のサポート</li> </ul>
ポート設定と分離レイヤ2 ネットワーク	<p>スケラビリティポートを含む、ポートとポートチャネルの設定サポートをイネーブルにします。また、アップストリーム分離 L2 設定を可能にします。</p>
装置ポリシー	<p>シャーシディスクカバリ ポリシー、ラック ディスクカバリ ポリシー、ラック管理接続ポリシー、およびその他の機器関連ポリシーのグローバルサポート</p>
グローバル サービス プロファイルの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• サービス プロファイル内での vNIC と vHBA の手動作成</li> <li>• テンプレートからサービス プロファイルを作成する場合の命名規則</li> <li>• サービス プロファイル資格ポリシー</li> </ul>
アダプタ ポリシーの強化	<p>RoCE、NVGRE、ARFS、および VxLAN がアダプタ ポリシーに追加されました。</p>
新しい接続ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• VMQ 接続ポリシー</li> <li>• usNIC 接続ポリシー</li> </ul>

機能	動作
PVLAN	プライベート VLAN の設定サポート
高度なホスト ファームウェア パック	ホスト ファームウェア パッケージ ポリシーでのコンポーネント除外のサポート
メンテナンス ポリシーの強化	次回のリブート時に自動的に変更を適用するようにメンテナンスポリシーをスケジュールできるようになりました。
Smart Call Home	Cisco UCS Central 上での Smart Call Home のサポートをイネーブルにします。
従来のライセンス管理およびスマートライセンスのサポート	従来のライセンス管理のサポートを継続するだけでなく、新しいスマートライセンスのサポートをイネーブルにします。
リモート認証の強化	TACACS+ と RADIUS のサポートが追加されました。
BIOS トークンのサポート	Consistent Device Naming (CDN) などの Cisco UCS Manager に付属のすべての BIOS トークンのサポートが含まれます。
SNMP サポート	Cisco UCS Central アラートを SNMP 経由で他の管理ツールに送信します。
Cisco UCS Manager 3.1	Cisco UCS Manager リリース 3.1 と関連するハードウェアプラットフォームのサポートが事前にイネーブルになっています。
ブート ポリシーの強化	複数の LUN、組み込み LUN、および組み込み JBOD からのブートのサポートをイネーブルにします。
API 通信レポート	GUI とバックエンド間のアクティブ API 通信に関するレポートをイネーブルにします。
Tomcat ログイング	Tomcat プロセスのログイングをイネーブルにします。
VLAN 権限管理の改善	複数の組織が別々の VLAN に対するアクセス許可を所有できます。

機能	動作
複数削除使用分析	どのサービスプロファイルで使用されているかなどの複数のポリシーを削除する影響を確認できます。
全般的な UI の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• エクスポート、保存済み検索</li> <li>• ドメイングループと組織ビュー UI の強化</li> <li>• ウィジェットの強化と新しいウィジェットの追加</li> <li>• ファン、PSU、メモリなどのシステム内のすべてのハードウェア コンポーネントを表示するハードウェア コンポーネントテーブル ビュー</li> </ul>
設定ステータス	ポート、サービスプロファイル、およびファームウェア アップグレード スケジューリングの設定ステータスを表示できます。
セキュリティの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 基礎となるオペレーティング システムの更新だけでなく、複数のセキュリティの強化が追加されました。</li> <li>• KVM 専用のアクセス許可を使用した統合 KVM の起動</li> </ul>
ダイレクト アタッチド ストレージ (DAS)	ストレージ アレイを FI に直接接続できるようにします。

## リリース 1.4(1a) での動作変更

### 機能サポート

従来のフラッシュ ベースのユーザ インターフェイスで使用可能な次の機能が、新しい HTML5 ユーザ インターフェイスでサポートされなくなりました。

- ポリシー インポート
- しきい値ポリシー
- 統計情報



(注) Cisco UCS Central リリース 1.4(1a)以降のリリースで導入された機能が HTML5 ユーザーインターフェイスで使用できます。

### 設計に基づく動作の変更

- サービス プロファイルを作成する前に、グローバル サービス プロファイル テンプレートを作成する必要があります。
- 次のインライン オプションはサービス プロファイルで使用できません。
  - ブート ポリシー
  - スタティック ID

既存のグローバル サービス プロファイルにこれらのオプションのいずれかが含まれている場合は、HTML5 UI でグローバル サービス プロファイルを編集できません。

- ブート ポリシー下の iSCSI ターゲット設定は Flex UI で使用できません。
- vNIC および vHBA 配置はインターフェイス配置と呼ばれるようになりました。
- 登録ポリシーはドメイン グループ資格ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲資格ポリシーは ID 範囲アクセス コントロール ポリシーと呼ばれるようになりました。
- ID 範囲アクセス コントロール ポリシー用として認定された IP アドレスは存在しません。
- 唯一のバックアップ オプションが全設定バックアップです。論理設定やシステム設定などの他のバックアップ タイプはサポートされません。
- ローカル サービス プロファイルは、ドメイン グループの代わりに組織からホスト ファームウェア ポリシーを取得します。
- HTML5 UI でインポートが失敗すると、メッセージにインポート失敗の原因が表示されます。エラーを修正して、インポートの設定を再送信します。
- ローカル サービス プロファイル インベントリが表示されません。
- 現在、ローカル サービス プロファイルで使用され、ドメイン グループに属しているメンテナンス ポリシーとスケジュールは HTML5 UI で使用できません。

## 機能サポートマトリクス

次の表に、Cisco UCS Central の機能と、それらの機能がサポートされる Cisco UCS Manager のリリース バージョンのリストを示します。



(注) 一部の機能は、今後の Cisco UCS Manager のリリースとの互換性を確保するために Cisco UCS Central で構築されています。

#### リリース 1.4 の機能サポート

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	2.2	2.5	3.0	3.1
ポート設定	1.4(1a)	No	No	No	No	3.1(1) 以降
高度なローカルストレージ設定	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	2.5(1) 以降	No	3.1(1) 以降
ブート ポリシー内の複数の LUN	1.4(1a)	No	2.2(7) 以降	2.5(1) 以降	No	3.1(1) 以降
一貫したデバイスの命名	1.4(1a)	No	2.2(4) 以降	2.5(1) 以降	3.0(1) 以降	3.1(1) 以降
ダイレクトアタッチドストレージ/FC ゾーン分割	1.4(1a)	No	No	No	No	3.1(1) 以降
高度なホストファームウェアパック	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
usNIC 接続ポリシー	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
VMQ 接続ポリシー	1.4(1a)	No	2.2(6) 以降	No	No	3.1(1) 以降
装置ポリシー	1.4(1a)	No	No	No	No	3.1(1) 以降
次回のレポート時のメンテナンスポリシー	1.4(1a)	No	No	No	No	3.1(1) 以降

## リリース 1.3 以前の機能サポート

Cisco UCS Central の機能	サポートされる Cisco UCS Central のバージョン	サポートされる Cisco UCS Manager のバージョン				
		2.1	2.2	2.5	3.0	3.1
マルチバージョン管理のサポートとサポートされる Cisco UCS Manager 機能の表示	1.1(2a)	No	2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
ポリシー/ポリシー コンポーネントおよびリソースのインポート		No	2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
バックアップイメージファイル用のリモートロケーションの指定		No	2.2(2b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
サードパーティ証明書		No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
IPv6 インバンド管理サポート		No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
再接続への予測影響		1.2(1a)	No	2.2(3a) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降
高精度のブート順制御	No		2.2(1b) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(1c) 以降	3.1(1a) 以降
スクリプト可能な vMedia	1.2(1e) 以降	No	2.2(2c) 以降	2.5(1a) 以降	3.0(2c) 以降	3.1(1a) 以降





(注)

- ポリシー/ポリシー コンポーネントまたはリソースの検索は、Cisco UCS Manager のリリース 2.1(2x) と 2.1(3x) でサポートされます。ポリシーをインポートするには、Cisco UCS Manager のリリース 2.2(1b) 以降が必要です。
- Precision Boot Order Control については、ブレードサーバが CIMC バージョン 2.2(1b) 以降でなければなりません。

## アップグレードパス

Cisco UCS Central のリリース 1.4(1a) へのアップグレードは、次の 2 つのリリースのいずれかからのみ可能です。

- 1.2 から 1.4(1a) へ
- 1.3 から 1.4(1a) へ



(注)

以前のリリースの Cisco UCS Central へのアップグレード方法については、[該当するリリースのインストールとアップグレードのマニュアル](#)を参照してください。

## 既知の制限事項と動作

特に記載されていない場合、次の既知の制限事項と動作があります。

不具合 ID	症状	回避策
CSCus21388	クラスタセットアップでは、RDM 共有ストレージリンクがプライマリ ノード上でダウンすると、DME がデータベースに書き込めなくなります。これにより、プライマリ ノード上のクラッシュと下位ノードへのフェールオーバーが発生します。下位ノードがプライマリ ノードとして処理を引き継ぎます。その後で、データベースが新しいプライマリ ノード上で読み書きモードでマウントされます。RDM リンクがダウンしているため、古いプライマリ ノードでアンマウントが失敗します。RDM リンクが機能するようになると、データベースは古いプライマリ (現在の下位) ノード上で読み取り専用モードでマウントされます。	現在の下位ノードで pmon サービスを再起動するか、ノード自体を再起動します。これらのプロセスのどちらでも、読み取り専用パーティションがアンマウントされ、適切なクリーンアップが実行されます。
CSCuv32055	ISO イメージを使用して VMware に Cisco UCS Central をインストールすると、Cisco UCS Manager と Cisco UCS Central 間の時間同期の問題が原因でドメイン登録が失敗することがあります。	この問題が発生した場合は、次のコマンドを使用して Cisco UCS Central の CLI から手動で証明書を再生成します。 # connect policy-mgr # scope org # scope device-profile # scope security # scope keyring default # set regenerate yes # commit-buffer
—	Cisco UCS Central HTML5 GUI を使用している場合は、欠落したアイコンや不明確なフォントなどの表示の問題が発生することがあります。	ブラウザのキャッシュをクリアして、Cisco UCS Central HTML5 GUI を再起動します。

## セキュリティ修正

次のセキュリティ修正が解決されています。

リリース	不具合 ID	CVE ID	症状
1.4(1a)	CSCuu68852	CVE-2015-4000	OpenSSL の脆弱性が解消されました。
1.4(1a)	CSCux33573	CVE-2015-6387	HTTP Web ベースの管理インターフェイスの脆弱性が解消されました。
1.4(1a)	CSCux33575	CVE-2015-6388	SSRF 保護の脆弱性が解消されました。

## リリース 1.4(1a) の未解決の警告と解決された警告

### リリース 1.4(1a) の未解決の警告

次の警告がリリース 1.4(1a) では未解決のままです。

不具合 ID	症状	回避策
CSCux44445	ブート ポリシーを編集して既存のローカルストレージブート順序のすべてを削除してから、保存せずに別のローカルストレージブート順序を追加すると、次のエラーが表示されます。  child [boot order name] can't be added to deleted object	ローカルストレージブート順序を保存してから、新しいブート順序を追加してください。

### Release 1.4(1a) で解決済みの警告

次の警告がリリース 1.4(1a) で解決されています。

不具合 ID	症状
CSCuu14611	Cisco UCS Central は、登録済みの Cisco UCS ドメインの不正なライセンス状態を表示しなくなりました。

不具合 ID	症状
CSCuu18772	Cisco UCS Central では、1 つの初期ライセンスしか設定できなくなりました。
CSCut04955	ダイレクトアタッチドストレージが Cisco UCS Central で設定できるようになりました。
CSCuv28064	Cisco UCS Central でブートポリシー内のプライマリまたはセカンダリ SAN ブートの vHBA 名を変更すると、その変更が Cisco UCS Manager に反映されるようになりました。
CSCuw14379	高度なホストファームウェアポリシーが Cisco UCS Central で使用できるようになりました。
CSCuw45330	しきい値ポリシー内の 'ether-if-stats' クラスの下の 'rx-...-delta' プロパティと 'tx-...-delta' プロパティが Cisco UCS Central CLI を使用して設定できるようになりました。
CSCuw67774	ホストファームウェアパッケージが組織の下でしか作成できなくなり、Cisco UCS Central 内のさまざまなサブ組織やドメインに影響なくなりました。
CSCuw68037	Cisco UCS Central で削除されたサブ組織が Cisco UCS Central GUI に表示されなくなりました。
CSCuw73554	Cisco UCS Central は、/var/log/messages ディレクトリと /var/log/ucsCentral_messages ディレクトリ内のログが 100 MB に達すると、cron.daily スクリプトと logrotate スクリプトを実行するようになりました。
CSCuw76011	Cisco UCS Central CLI でプレーンテキストの説明をグローバル VLAN と VSAN に追加できるようになりました。
CSCuw85224	Cisco UCS Central powershell スクリプトは、不正な AdminVcon、Order、および vHBA 情報を表示しなくなりました。
CSCux15438	vNIC テンプレートの作成中に MAC プールを選択しても、不正な MAC プールが保存されなくなりました。

不具合 ID	症状
CSCut69263	Cisco UCS Central HA 上で NFS マウントパスを変更しても、Cisco UCS Manager のバックアップとファームウェアのアップデートが失敗しなくなりました。
CSCut75549	global_default メンテナンス ポリシー、ブートポリシー、およびローカル ディスク設定ポリシーを変更して、Cisco UCS Central を再起動しても、ファクトリーデフォルトにリセットされなくなりました。
CSCut74984	アップグレード後に、Cisco UCS Manager の登録ステータスが、Cisco UCS Manager で 'Failed' として、Cisco UCS Central で 'Visible' として表示されなくなりました。

## 関連資料

これらのリリース ノートに加え、Cisco.com の次の場所で、Cisco UCS Central リリース 1.4 に関する資料を参照できます。

- [『Cisco UCS Documentation Roadmap』](#)
- [『Cisco UCS Central Install and Upgrade Guides』](#)



---

© 2015 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.